

福祉のまちづくり部会 報告

1 開催状況と協議事項

| | 時 期 | 協議事項 |
|-------|-----------------------------|---|
| 第 2 回 | 令和 8 年 3 月 16 日 (月) | 1 令和 7 年度 of 取組報告 (1) 事業番号 29 駅と駅周辺のバリアフリー化の促進 (2) 事業番号 33 ユニバーサルデザインの理解の促進 (3) 事業番号 35 障害のある方や外国人等への情報保障の推進 2 バリアフリー関連の最近の動向について 3 その他 |

2 いただいた主なご意見

1 令和 7 年度 of 取組報告について

(1) 事業番号 29 駅と駅周辺のバリアフリー化の促進

練馬駅周辺のアクセスルートのバリアフリー整備状況の検証事業の実施および歩道がない部分の試行整備の実施状況について報告するとともに、令和 8 年度 of 取組予定を紹介した。

○検証事業については、今後どのようなスパンで実施する予定か。全体的な計画を立てて実施した方がよい。

整備した設備の耐用年数や工事の有無等を確認しながら、適宜判断していく予定。いくつか実施していく中で、検証のスケジュール等については検討していく。

○バス、鉄道、道路などの案内等のデザインの統一はどう考えているか？

できる限り統一されているのがよいとは考えているが、管理者が違う中で統一は難しい課題でもある。区が対応する部分については、できる限り統一できるように対応していく。

○案内板は音声や点字等どのようなものが整備されるのか。

令和 8 年度に予定している施設誘導板は、一般的な施設名と方向と距離を文字で示したものになる。案内板については、音声や点字があった方がよいという意見もいただいており、引き続きご意見をいただきながら、掲載内容や設備、設置位置等については、検討していく。

(2) 事業番号 33 ユニバーサルデザインの理解の促進

令和 7 年度に実施したユニバーサルデザイン体験教室、地域講座、ステップアップ講座の開催状況等を報告するとともに、令和 8 年度 of 取組予定を紹介した。

○ユニバーサルデザインという言葉は、どのくらい包含する言葉か？ユニバーサルデザインという言葉を使いながら事業を展開していく範疇をどうとらえているのか。

1つの手法や考え方で「誰もが使えるもの」に対応することは難しいので、理念を目指し、差別解消、合理的配慮、情報保障等を多面的に進め、ハード・ソフト両面の対応に着眼点を置きながらサービスの選択肢を増やしていくことから対応していく。

○開催校が22校となっているが、全体の割合ではどの程度か。

練馬区内の小中学校が98校程度なので、引き続き実施校を増やせるよう、周知方法等を検討していく。

(3)事業番号35 障害のある方の情報保障の推進

令和7年度に新たに始まった「電話代理支援サービス」について報告するとともに、令和8年度から開始される区主要窓口でのオンライン通訳の導入について報告した。

○DXが進むことのメリット・デメリットがある。デジタルDXのデザイン全体をどう考えているか。

事業者にとって負担軽減や人材確保に資する取組があれば、国・都・先行自治体等の状況を参考にしながら取り入れたり、AIの情報の処理等についての対応を注視していく。

2 バリアフリー関連の最近の動向について

次の4点について情報提供を行った。

1. 劇場等の客席における車椅子利用者用客席について、東京都が独自基準を創設
2. 建築プロジェクトの当事者参画の推進
3. 視覚障害者誘導用ブロックの切り欠き設置の検討
4. 心のバリアフリーの理解促進(子どものバリアフリーの理解促進にむけ、子どもに人気のキャラクターとコラボレーションしたアニメを東京都が作成)

○切り欠き設置については、決定する前に当事者の意見等を聞いて実施してほしい。また、国はガイドラインの提示に留まるので、練馬区で実施する場合は図面や現地点検等を丁寧に実施し、視覚障害者が迷わないよう配慮しながら実施してほしい。

引き続き、国の動向に注視していく。

切り欠き設置を実施する方向になった際は、使う方の視点を大切に、意見を確認しながら実施するようにする。

3 その他

・西武鉄道株式会社から、ホームドアおよび西武新宿線連続立体事業の進捗状況等について共有があった。

・公園利用に関するマナー向上や心のバリアフリーの推進について意見があった。

・歩道上の障害物(店舗の看板や自転車)に対する対応等について意見があった。

・福祉施設の敷地を活用したベンチの設置や情報提供(掲示板)について、意見があった。